



1. 学校を視察に訪れた各国代表者を前に、英語で地元の魅力とフェアトレードについてプレゼンテーションを行う
2. 校舎の屋上で育てているミツバチの世話。「徳川はちみつ」は今や地域の特産品だ
3. カップのふたも、ガーナと日本の国旗の色をイメージしてデザインするこだわり
4. カカオ・チョコレート商社、アイスメーカーとの打ち合わせ
5. 地元の銭湯で行ったトークショー。来場者は幸せのはちみつカカオや足湯を楽しみながら、社会の問題へ理解を深めた



身近にできる 国際協力を伝える

connect with
Ghana
ガーナ



地域に根を下ろした 国際貢献のかたち

教室に入ると、女子高校生らの笑顔に迎えられた。次の瞬間、進み出た学生がさっと差し出したのは、なんと名刺だった。――愛知商業高校ユネスコクラブ部長岩室美咲。「私たちは、学校の屋上で作っている「徳川はちみつ」とフェアトレードによるガーナの産物のカカオを使ったアイス、幸せのはちみつカカオを開発し、持続可能な未来に向けて活動しています」。実は彼女たち、地域の自然環境と開発途上国の貧困問題の解決に取り組みむ若きビジネスパーソンだったのだ。これまで、マーケティングや関係機関との交渉、販売促進などは、全て自分たちでこなしてきた。その中で身に染みて感じたのは、地域とのつながりの大切さ。「幸せのはちみつカカオ」の取り組みは、地域との信頼関係を存分に生かした国際協力のかたちなのだ。

世界の幸せの願いを込めた アイス開発

「幸せのはちみつカカオ」の取り組みが本格的に始まったのは、昨年5月。部員がフェアトレードのワークショップに参加し、世界の貧困問題、そして自分たちの当たり前前の生活のありがたみを知ったことがきっかけだった。「これまでの商品開発のノウハウやネットワークを生かして問題解決に貢献したい」。何度もワークショップに参加する中で見えてきたのは、ガーナの産物産業における児童労働の現状だ。同時に彼女たちは、安定的な供給が見込めるカカオを使用すれば、活動を通して継続的な支援ができると考えた。こうして、地元の蜂蜜とガーナ産カカオを使ったアイスづくりが始まった。

しかし、「どう発信していくかが課題です」と梅田晴香さんは話す。フェアトレード商品は流通量が少なく、値段も高めなので、その意義を理解してくれる人でないと商品を手にとってくれない。そんな問題意識から、ユネスコクラブでは商品開発だけでなく、イベントやプレゼンを通して人々と世界の問題を共有することを重視している。

昨年11月には、名古屋市で「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」が開催され、同校にも各国代表の参加者が視察に訪れた。その機会を生かし、「幸せのはちみつカカオ」のプレゼンを英語で行った彼女たち。アイスの売り上げの一部は、ガーナの教育支援や農業発展のために役立てられること、買

「初めは、有志の活動でした」。そう語るのには、クラブ顧問の梶原英彦先生だ。2010年に、まちづくりを授業の一環として導入して以来、大学との連携で校舎の屋上でミツバチを飼育し、採れた蜂蜜で商品開発をして地域貢献に生かすなど、発展的な活動を取り入れながら現在の部活動の礎を築いてきた。「地域の人々と生徒、どちらも信頼しているから、活動は学生に任せているんです」。その言葉の通り、学生たちは自ら行政機関や企業に足を運んで、蜂蜜を使った商品やイベントの企画を売り込んでいる。加藤ななさんは、「私たちの取り組みが少しずつ知られ始めていることを実感しています」とやりがいを語る。2013年12月には、ミツバチプロジェクトなどの取り組みが、持続可能な開発のための教育として国連教育科学文化機関（ユネスコ）から評価され、同校は「ユネスコスクール」に認定された。これを機に、クラブの視野は世界へと広がっていく。

い物を通してできる国際協力があることなどを堂々と紹介する彼女たちの発表に、各国の参加者たちも熱心に聞き入った。鶴田紗也さんは、「活動の視野が世界に広がり、これまでは味わえなかった世界とのつながりを感じるようになりました。もっと自分の言葉で伝えられるようになりたい」と英語の勉強に意欲を見せる。また、5月に開催したフェアトレードのイベントでは、地域の銭湯を舞台に、「日本の伝統を大事にする」「フェアトレード商品を購入する」など、身近にできる社会貢献をテーマにトークショーも行った。「最近、フェアトレードのチョコレートを買ったことが増えました」と、自分たちの生活にも変化が生まれている。

「最初は地域での取り組みでしたが、今は、世界を意識するようになりました。今後も世界に目を向けつつ、地域に根ざして活動していきたいです」と部長の岩室さんは話す。クラブの一人一人が、商品を通じて地域と世界をつなげることを自分たちの使命として捉えている。



新1年生を迎え、新たなスタートを切るユネスコクラブ